

群馬県立 長野原高等学校

テーマ

到達度テストWEB

目的

既習範囲の学び直し



黒岩先生 (左: 1学年サブリ担当)
 木暮先生 (右: 2学年サブリ担当)

当初は教員が動画を配信して、視聴や学習は生徒の自主性に任せていたんです。よく取り組んでいる生徒を表彰してみようとか、いろいろと試行錯誤しましたが、生徒たちはまだ「勉強を頑張っていることを知られたくない」という気持ちが強かったようで、フィットしませんでした。また、教員から一斉に配信する課題では、生徒個別の苦手が掴めないという面もありました。そこで個々の

「振り取り週間」を始めた経緯
 そもそも当校は「中学校範囲の学び直し」を大きな特色として掲げています。3年ほど前、改めて小学校レベルの学習から補い、学力を積み重ねるシステムを構築しようという話になったんです。振り取りマラソンと題して、スタデイサプリを使って取り組みを始めました。

「振り取り週間」とは
 年2回実施する到達度テスト、その後の校内定期テストが終了したタイミングで、約2週間の短縮授業期間を設けています。その短縮で浮いた時間をテストの振り取りに活用しているのです。スタデイサプリの連動課題配信で個別に学習してもらいつつ、傍らで教員は生徒と個人面談を行います。

「中学校の学び直し」を掲げている長野原高校。スタデイサプリの到達度テストを活用し始めた背景、効果と展望をお聞きしました。

弱点が可視化され、補うべき課題の配信ができる到達度テストを導入する運びになったんです。

実際の取り組みについて

到達度テストを利用して良かったのは、やはりできていなかった部分を克服できています。生徒達もかなり実感しており、スタデイサプリの確認テストでスコアが上がると意欲が増すようです。

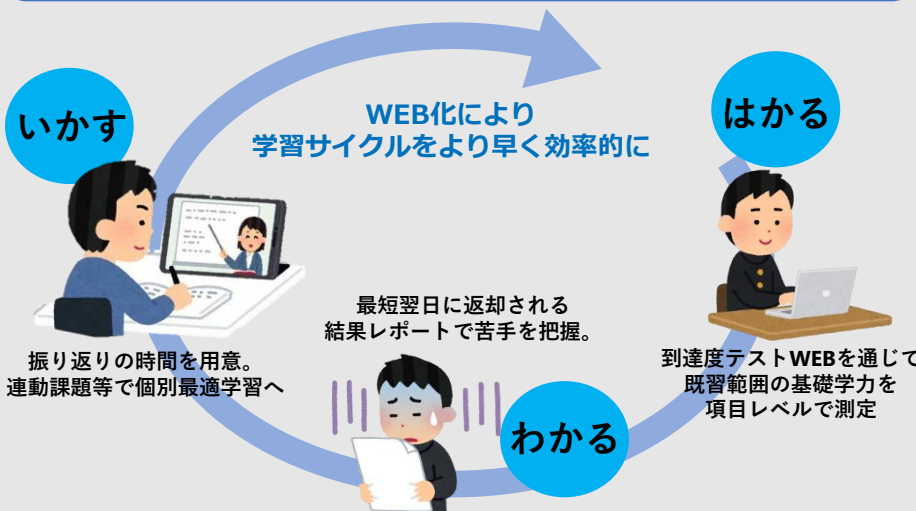
個別の到達度テストの結果に応じてできなかった部分の課題が配信されるので、確実に生徒の苦手にヒットしている手応えがあります。多少なりとも関心を持って取り組む生徒がいる、こういう内容なら集中力が続く、と教員側の発見にもつながっています。こうした取り組みをしている中で、到達度テストM&Dお試しのお話をいただき、チャレンジしてみることにしました。

到達度テストWEBの振り返り今後にについて

本校は、全ての教員がM&Dに長けている訳ではありませんが、できる人が手分けをすれば問題ありませんでした。私自身、定期テストをパソコンで実施しているので、カンニングや入力ミスといった懸念もなかったです。生徒がクローラムブックを忘れた、充電がないといったトラブルは想定していましたが、特に支障はありませんでした。

また、生徒の反応も気になっていましたが、端末操作は教員以上に長けている点もあり、運用上で困ることはなかったように感じます。M&D化を実際に試した上で、来年度以降はすべての到達度テストをM&D化する予定です。部材を配って回収する手間が省けるようになります。また、業務の削減に対する期待が大きいです。また、今まで以上に迅速にテストの結果を確認できるようにするので、振り取り週間の運用にさらに活かせればと思っております。

到達度テストWEBを利用して学習のPDCAを学校全体で構築



群馬県立長野原高等学校 Gunma Prefectural Nagano-hara High School



【学校情報】

昭和27年に地域住民の熱い要望のもと吾妻高校長野原分校として誕生。昭和43年に長野原高校として独立し、創立71周年を迎えた。「あつとほーむ」を合言葉に少人数だからこそ個別指導・学びなおし・地域連携に注力している。各学年20~25名在籍。